

埼玉親善大使の活動

氏名：イスラム アディバ

留学先：アメリカ・ローワン大学

・埼玉県を PR した事柄について

今回は埼玉県の PR を兼ねて、お土産として「さやま茶らんぐ」と、1864 年創業の「秩父飴」を持参しました。海外では抹茶の人気が高いため、抹茶を使ったお菓子なら喜んでもらえると考え、さやま茶らんぐを選びました。また、秩父市は埼玉県内でも有名な観光地であり、長い伝統を持つ秩父飴は埼玉らしさを伝えられると思い、お土産として持っていきました。ローワン大学では、Japanese Culture Club の隔週の集まりでこれらのお土産を配り、さらに埼玉県の魅力を紹介するスライドを作って発表する機会を設けました。発表では、狭山茶ならではの特徴として、冷涼な気候で茶樹がしっかり休眠し、葉肉が厚くなることで生まれる濃厚な味わいについて説明しました。また、秩父市の自然豊かな観光地として、秩父雲海、長瀨岩畳、小鹿野町、羊山公園など、季節ごとに楽しめるスポットを紹介しました。加えて、ユネスコ無形文化遺産の秩父夜祭や、秩父温泉の魅力についても「埼玉に来たらぜひ体験してほしい」と伝えました。クラブでは埼玉県を知っている学生がほとんどいなかったため、自分の発表を通してその魅力を少しでも伝えられたことが、とても嬉しかったです。また、スライドを作る過程で、自分の身近な埼玉県にこんなに多くの観光地があると改めて実感し、帰国したらリストを作って埼玉をもっと冒険したいと思いました。

・現地での生活、風土、文化、歴史、国民性など

今回はニュージャージー州にあるローワン大学へ、ワンセメスターの交換留学をしました。私が滞在していた時期は、ちょうど 10 月のハロウィン、11 月のサンクスギビング、そして 12 月に入ってからの中身のクリスマスイルミネーションなど、季節のイベントを存分に楽しめる時期でした。特に、初めて経験したアメリカンハロウィンとサンクスギビングを通して、アメリカ文化に深く触れられたと感じています。10 月末には、セントラル・ニュージャージーに住む親戚の子どもたちとその友達に混ざっ

て、初めての Trick or Treat に参加しました。町中の家々が積極的にハロウィンの飾り付けをしており、動く骸骨やホラー映画をプロジェクターで映している家まであり、本格的にハロウィンを楽しんでいる雰囲気には驚きました。また、子どもたちが自分でかぼちゃに顔を彫って飾るという文化も知りました。中学生たちと一緒に家々を回り、さまざまなお菓子を集めたことは、貴重な体験になりました。11月末のサンクスギビングの週はニューヨークで過ごしました。サンクスギビングでは七面鳥（Turkey）を丸ごと調理するのが一般的ですが、私が驚いたのは、すべての人種の人々がこの祝日を祝い、宴会を開いていることです。そして、サンクスギビングの歴史についてもそこで初めて詳しく知りました。1621年、新大陸に渡ったピルグリムが厳しい冬を乗り越え、先住民ワンパノアグ族の助けを得て初めての収穫を祝ったことが始まりで、「神と人への感謝」を示す伝統として発展してきました。現在では家族や友人が集まり、1年間の恵みに感謝する大切な祝日として定着しています。多文化社会のアメリカでは、こういった伝統的なイベントを、人種に関係なく「アメリカ人」として皆が共に祝っている姿がとても印象的でした。その場に参加した私も、すぐにコミュニティの一部になれたような感覚があり、とても温かい経験でした。キャンパスでの生活では、ルームメイトがとても優しく、周りの人たちも困っていると声をかけてくれることが多く、こうした他人にもフレンドリーなところが、私がアメリカ文化で最も好きな点です。キャンパスにはさまざまな文化背景を持つ学生が多く、それぞれの文化に基づいた組織やクラブも多いため、関連イベントも頻繁に開催されています。これらの経験を通して、一つの場所に多くの人種の人々が集まりながらも、バラバラではなく「アメリカ人」としての一体感を持って生活していることに強い感動を覚えました。

・自身の活動に関すること

留学中は、将来目指しているデータサイエンス分野でのスキル向上を目標に、自ら積極的に専門科目を履修しました。母校にはない二つの専門授業では、新しいツールの操作やデータ分析・可視化の技術を学び、特にグループワークでは英語で専門的な議論を行いながら、チームとして課題を解決する経験を積みました。これは、グローバルに活躍できる女性エンジニアになるという自分の夢に向けて、大きな一歩進めたと思いました。また、コミュニケーション系の授業では、毎回の授業で様々なトピックについて意見を交換し、自由に自分の考えを述べられるようになりました。授業外でも、Japanese Culture Club に所属し、自分から日本文化を紹介したり、文化イベントに参加したりしました。クラブでは、日本語学習カードゲームやクイズ大会、日本

の「文化の日」イベントで仮面作りなど、現地の学生と交流しながら、日本文化を発信する活動を行いました。特に、日本へ行ったことのある学生とは、互いのカルチャーショックや文化の違いについて深い対話を交わし、自分のバックグラウンドを説明する力や、相手の文化を理解する姿勢を身につけることができました。これらの活動を通して、私は学問的なスキルだけでなく、異文化交流の場で自ら行動し、周囲と学び合う姿勢を大きく成長させることができたと感じています。



ハロウィンの Trick or Treat



ローワン大学



Japanese Culture Club で作った仮面